

(1) 令和2年度 教職員による自己評価 及び 学校関係者評価

静岡雙葉中学校・高等学校

評価項目		自己評価	学校関係者評価	
1	宗教教育の充実・精神性の涵養 ①宗教の授業、宗教行事、聖堂での朝の祈り、朝礼時に聖歌を歌うことを通して、豊かな心を育む。 ②精神性を育むために、学年毎の1年間の経営計画に則って、多面的に活動する。 【実践と自己評価】①コロナ禍のため、学年の宗教行事は、それぞれ宿泊をせずに、学校講堂や市民文化会館で実施したが、自分を振り返る良い機会となった。②学年毎に精神性の涵養を目指した様々な取り組みが成された。	A	A	コロナ禍の中でも、宗教行事を中止せず工夫して実施するなど、精神性を育むための様々な取り組みを大切にしていることは評価したい。今後も本校らしい取り組みを継続して欲しい。
	【学校関係者評価を受けて】コロナ禍に対応して新しい生活様式を守りながらも、生徒が人生を歩む上での精神的な柱を育むことができるように、様々な教育活動を、工夫しながら企画、実施していきたい。			
2	学習指導の充実・学力の向上 ①学年毎の教育計画、各教科の実践計画に基づき、計画的に教科教育を実施する。 ②基礎・基本の定着、授業中心の学習体制の確立により、学力の向上を図る。 ③教員1人ひとりがより良い授業を行うための具体的な取り組みを行う。 ④中3、高1の生徒全員に配布された個人持ちのタブレット端末や他のICT機器を有効に活用し、主体的学習やアクティブラーニングを取り入れた授業展開について更に研究し、実践する。 ⑤知的好奇心を高めるため、また視野を広げるため、海外研修、英語検定試験等の各種検定、大学が企画するセミナー、公開講座への積極的参加を促す。 【実践と自己評価】①コロナ禍の中でも、4月よりオンライン授業を実施し、教科教育は概ね計画通り実施できた。②6月の登校再開後は、例年通り授業を中心にして学力の向上が図れるように具体的に指導している。③生徒による授業アンケート(9月末に実施)等を踏まえ、教員各人が自己研鑽し、授業の充実を図っている。④オンライン授業の必要性から、個人持ちのタブレット端末を、導入予定を前倒して高1以下全員に配布し、その活用方法やアクティブラーニングを意識した授業の研究が各教科で行われている。⑤英検をはじめ、各種検定試験に挑戦し資格を取得した生徒が増加している。	A	A	コロナ禍のような学校に生徒が集まれないといった事態は想定されていなかったと思うが、そんな中で、中1～高1まで、予定を前倒してタブレット端末を導入したことや、素早くオンライン授業ができたことは大いに評価できる。今後も未曾有の災厄の発生を前提に、不測の事態に備える常日頃の努力をお願いしたい。
	【学校関係者評価を受けて】令和4年度から導入予定の新教育課程を視野に入れながら、年間の指導計画に基づいて生徒たちの学力の着実な向上を図りたい。全ての教科でICT機器の有効利用を進めたい。			
3	自律性や社会性及び公共心の育成(生徒指導) ①基本的な生活習慣の確立に努める。 ②自律心、公共心及び社会的規範意識の育成を図るとともに、スマートフォンやインターネット、SNSの功罪、注意点について学ぶ。 ③社会性、自治能力、自律心の育成を図るため、生徒会活動、委員会活動、学級・学年活動を充実させる。 ④豊かな精神性を培うため、福祉施設(クリスマス)訪問、ボランティア活動、各種献金活動を充実させる。 【実践と自己評価】①登校停止期間にはオンラインによる担任との個人面談なども実施した。②オンライン授業は、生徒自身で生活のリズムを作ることに役立った。高1ではビジネスマナー専門の講師によるマナー講座を実施した。③④9月の雙葉祭では、生徒の創意工夫が多く見られ、コロナ禍で一般の方の来場ができない状況でも、オンラインで活動の様子を発信した。12月の施設訪問はできなかったが、手作りカードやプレゼントはお届けした。	A	B	校内で、生徒が保護者や外部の来客などに会った際の挨拶はかなり出来ているが、更に校外でも気持ちの良い挨拶が出来るようになって欲しい。令和2年度は、コロナ禍の大打撃でスマートフォンやインターネット、SNSについて大いに「功」を実感することになったが、インターネット関連の注意点や学びについては、インターネットを多く使う場が家庭であるので、学校と家庭との連携を更に強化すべきだと思う。
	【学校関係者評価を受けて】スマートフォンやインターネットの使い方を含め、基本的な生活習慣や公共心の育成には、家庭の協力が不可欠なので、今後できる限り、家庭との連携を図っていきたい。			
4	たくましく未来を切り開く力の育成(進路指導) ①著名人や大学教授、先輩等による講演、校外のオープンセミナー、大学見学、海外研修等の様々な体験活動等への生徒の積極的参加を促す。 ②大学入試の最新情報を把握し、的確な進路情報を生徒・保護者に提供する。 ③今年度、中3高1と2学年に広がってきた「コース制」における様々な取り組みを、着実に実施する。 【実践と自己評価】①7月に国境なき医師団元日本会長による「未来への志を育む講演会」を実施した。高1では登校停止期間に進路を考えるための「夢ナビ動画」の視聴を課題とした。2月には地方公務員として働く卒業生による講演会も実施した。3月末にはシンガポールの姉妹校の生徒たちとオンラインで交流することができた。②進学講演会に加えて、県内若手医師の講演会や昭和大学による医療系志望者のための講演会も実施した。③コロナ禍のため、2ヶ月遅れで始まったコース制の授業であるが、2月に高1で中間発表会を実施し、各コースでの1年間の取り組みの成果を発表し、次年度への展望を得た。中3、高1と2学年の体制を確立できた。	A	A	各種の講演会を実施し、それは生徒に良い刺激となると共に将来のことを考える良い機会になっていると思うが、医療系の内容が多く感じ、やや偏りがあるように思う。学校の報告から、コース制の取り組みが軌道に乗り、成果が表れて来ていることが感じられる。コース制が3学年に広がる次年度に大いに期待したい。
	【学校関係者評価を受けて】コース制の取り組みの中には、コース別の講演会や体験がすでに色々企画されているが、今後、中1、中2も対象に様々な分野に渡る講演会や体験の機会を提供し、生徒の進路選択を支援したい。			
5	生命の安全確保 ①大規模災害に備え、総合的防災マニュアルを更に見直し、実践につなげる。 ②災害時、学校への宿泊を想定した防災備品の充実を図る。 ③年度計画に基づき、校内施設、設備の点検、特に防火設備、防災設備の点検を確実に実行する。 ④生徒が、自分の命を自分で守れるよう、防災訓練等をより実践的のものにして、地震・火災等への防災意識と危機対応能力を高める。 【実践と自己評価】①地震発生時における教員の対応の要点マニュアルの今年度版を掲示し、周知を図った。②防災用品の備蓄状況を確認した上で中1の防災用品を前期に発注した。冬期に備え教員用寝袋を追加購入。③全て計画通り、夏休み中に点検を行った。④8月末に防災訓練を実施、11月には抜き打ちで地震防災訓練を実施した。また、3月末には防火訓練として、各ホームルーム教室から校庭への避難訓練を行い、危機対応力の向上を図った。	B	A	取り組みを見る限り、当初の計画と比べて大きく進捗の遅れたところもなく、様々な活動をされているのでA評価でも良いのではないかと。学内トイレの洋式への刷新工事が進められているが、災害時に生徒が学校に残留したり、断水などが起こった場合のトイレ対策も十分しておいて欲しい。防災用品については、学校に自動販売機を設置している企業と災害時における食料や飲料水などの提供をお願いするなどの取り決めを検討してはどうか。
	【学校関係者評価を受けて】防災訓練は、様々な場合を想定し、より実践的になるよう工夫していきたい。災害時のトイレ対策を改めて見直すと共に、防災用品の備蓄についても色々な方法を検討していきたい。			
(学校側のまとめ) コロナ禍のため、予定していた行事等の変更に加え変更を余儀なくされ混乱した1年間だったが、職員がよく協力して対応することができた。中高生にとっての1年は人生の中でもとても貴重で特別な時間であり、その時間を実りあるものとするのが生涯の糧となる。そのため学校は、どんな状況の中でも知恵を絞って生徒の学び、心の成長を支援していかねばならない。		(学校関係者評価委員会のまとめ) コロナ禍により、各行事が予定通りできなくなり残念だったが、学校は臨機応変に良く対応したと思う。今年のように縮小や変更をしたとしても、各学年に例年あった大きな行事は、生徒たちにとっては一生に一度のものなので、出来るだけ実施する努力をして欲しい。また、今後、インターネット関連を含む生徒指導については、学校と家庭でどのように役割分担していくのかを更に検討していただきたい。		

自己評価 : A 良くできた B できている C 改善を要する D より努力が必要

学校関係者評価 : A 大変評価できる B 評価できる C 改善を要する D 評価できない